



問③

複合庁舎、農業拠点施設の2つのプロジェクトに当たり、財政の裏づけ、健全化についての考えをお伺いします。

答③

久保 弘志 町長

役場庁舎については、令和2年度までに実施設計を行えば償還の一部を国が負担する有利な起債（借金）が借りられ、将来の返済では財政的に問題はなごうと思っています。

高校跡地については、地方創生交付金や有利な過疎債を活用していきたいと思っています。一定程度必要となる一般財源は、公共施設整備基金やふるさと事業基金の一部を活用できますので、現在の財政状況からは後世に負担を残さない整備ができるかと考えています。

災害対策について

問①

「コロナウイルスと並んで東日本大震災の報道がされていますが、想定外の災害が起こることを前提に、普段の取り組みをしてほしいと思います。町長の考えをお聞きします。

答①

久保 弘志 町長

東日本大震災、胆振東部地震の報道を改めて見ると、あらゆることを想定して、それに対応できる備えが必要であると認識しています。

「コロナウイルスの対応でも、備蓄品の不足を痛感しておりますので、しっかりと対応できるような努めしていきます。

森 浩 議員

福祉でまちづくりの推進について

問①

ひとりの生活や体力の減退などに不安を抱える高齢者がいる中で、サービス付き高齢者住宅などの建設を検討されているのか伺います。

答①

久保 弘志 町長

現在、高齢者生活福祉センター居住部門に13室あり、多くの待機者を出さずに運用しています。今後ニーズが多い状況が続く場合には増室を検討していく考えですが、

問②

人口減少等も勘案し、ニーズを把握しながら判断をしていきたいと思っています。

答②

久保 弘志 町長

ほほえみの居住について、家を所有していることや財産などによる制限はありますか。

答②

久保 弘志 町長

そういった制限はありません。自分で自炊ができるなど、いわゆる自立の状態が基本で、要介護1程度の方が利用できます。

問③

総合計画のアンケートでは、約47%の方がサービス付き高齢者住宅などのような施設の入居を希望しています。空き家対策も含めて重要な課題になっていくかと思いますが、現在、町外からの移住や空き家の問い合わせがあるのか、また、将来に向け高齢者の住まいをどのように考えるのか再度伺います。

答③

久保 弘志 町長

町外から移住や空き家の相談や要望はありますので、引き続き移住定住については取り組んでいかなければならないと考えています。

また、アンケートの結果については、尊重して考えなければならぬと思いますが、施設を新たに開設したが空きが多い状態では経営は成り立たず、民間の受け手もありません。小清水町の高齢者も減っている状況から今後どのように推移していくのかを見きわめ、近隣市町とも連携をして、ニーズを把握しながら施設が必要ときは整備を検討したいと考えています。

高橋 隆文 議員

「いきなり」について

問①

「これまでの取り組みは多くの関係人口をもたらさし、にぎわいが生まれつつある」「新たな雇用の創出や活力とにぎわいをもたらしてくれる流れ」「新たなコミュニティの場としての



問③

複合庁舎、農業拠点施設の2つのプロジェクトに当たり、財政の裏づけ、健全化についての考えをお伺いします。

答③

久保 弘志 町長

役場庁舎については、令和2年度までに実施設計を行えば償還の一部を国が負担する有利な起債（借金）が借りられ、将来の返済では財政的に問題はなごうと思っています。

高校跡地については、地方創生交付金や有利な過疎債を活用していきたいと思っています。一定程度必要となる一般財源は、公共施設整備基金やふるさと事業基金の一部を活用できますので、現在の財政状況からは後世に負担を残さない整備ができるかと考えています。

災害対策について

問①

「コロナウイルスと並んで東日本大震災の報道がされていますが、想定外の災害が起こることを前提に、普段の取り組みをしてほしいと思います。町長の考えをお聞きします。

答①

久保 弘志 町長

東日本大震災、胆振東部地震の報道を改めて見ると、あらゆることを想定して、それに対応できる備えが必要であると認識しています。

「コロナウイルスの対応でも、備蓄品の不足を痛感しておりますので、しっかりと対応できるような努めしていきます。

森 浩 議員

福祉でまちづくりの推進について

問①

ひとりの生活や体力の減退などに不安を抱える高齢者がいる中で、サービス付き高齢者住宅などの建設を検討されているのか伺います。

答①

久保 弘志 町長

現在、高齢者生活福祉センター居住部門に13室あり、多くの待機者を出さずに運用しています。今後ニーズが多い状況が続く場合には増室を検討していく考えですが、

問②

人口減少等も勘案し、ニーズを把握しながら判断をしていきたいと思っています。

答②

久保 弘志 町長

ほほえみの居住について、家を所有していることや財産などによる制限はありますか。

答②

久保 弘志 町長

そういった制限はありません。自分で自炊ができるなど、いわゆる自立の状態が基本で、要介護1程度の方が利用できます。

問③

総合計画のアンケートでは、約47%の方がサービス付き高齢者住宅などのような施設の入居を希望しています。空き家対策も含めて重要な課題になっていくかと思いますが、現在、町外からの移住や空き家の問い合わせがあるのか、また、将来に向け高齢者の住まいをどのように考えるのか再度伺います。

答③

久保 弘志 町長

町外から移住や空き家の相談や要望はありますので、引き続き移住定住については取り組んでいかなければならないと考えています。

また、アンケートの結果については、尊重して考えなければならぬと思いますが、施設を新たに開設したが空きが多い状態では経営は成り立たず、民間の受け手もありません。小清水町の高齢者も減っている状況から今後どのように推移していくのかを見きわめ、近隣市町とも連携をして、ニーズを把握しながら施設が必要ときは整備を検討したいと考えています。

高橋 隆文 議員

「いきなり」について

問①

「これまでの取り組みは多くの関係人口をもたらさし、にぎわいが生まれつつある」「新たな雇用の創出や活力とにぎわいをもたらしてくれる流れ」「新たなコミュニティの場としての

にぎわいの空間を兼ね備える防災拠点型複合庁舎」など、随所に使われている「にぎわい」の定義解釈についてどのような考えをお持ちか伺います。

答①

久保 弘志 町長

「にぎわい」としては、一般的に「活力のあるまち、陽気なまち」といわれ、また「そのまちに生きておもしろい」「にぎわいが生まれつつある」は、浜小清水地域に人が集まるようになり、そこに活力が出てきているということです。その流れを何とか市街地域まで持つてきたのが私の考えです。その中で、複合庁舎にもにぎわいの空間をつくり、町民の方に元気に楽しく住んでほしいという思いと、観光客にも訪れていただくことで活力が出ればという思いから、キーワードとして表現させていただいています。

問②

「コミュニティの場としてのにぎわいの空間」はこのように解釈したりするのはいいのか再度伺います。

答②

久保 弘志 町長

人と人のつながりができ、そこに

森林環境税と税について

問①

適切な森林整備の促進がもたられているとありますが、本年度の予算に反映しているのかお聞きします。

答①

久保 弘志 町長

まだ反映はしており、交付されるものについては基金に積み立てている状況となっています。現在は民有林所有者にアンケート調査を実施しており、その結果に基づきまして森林の適正管理に資する新たな施策を構築していきたいと考えています。

問②

森林環境税と税の半分については、当初計画より早く満額入るようになりますが、財源の森林整備等に

答③

久保 弘志 町長

まずはアンケート調査でニーズの把握を行い、専門的な知識も必要ことから、森林組合さんのご指導もいただきながら取り組んでいきますので、ご理解をいただきたいと思います。

答③

久保 弘志 町長

基金に積み立て、予算的に増額されたとしても、事業主体が人手不足や機械不足ということも考えられますので、早い時期に基本計画を策定していただいた中で、計画的な予算実施をしていただきたいと考えていますが、再度町長の考えをお聞きします。

問③

満額交付された税は、まずは基金に積み立てることになります。基本方針についても、実施中のアンケートの結果を見ながら事業の推進も含めて策定したいと考えています。

答②

久保 弘志 町長

する活用が求められていることから、基本方針について策定されているのかお聞きします。